

黒潮本流が本県沖合を北上傾向で通過

平成24年7月10日

(平成24年7月の海況と今後の予測)

茨城県水産試験場

1. 本県周辺海域の概況(7/6現在)

- ・今月の海況の概要は図1のとおりです。
- ・黒潮の流型はやや蛇行したB型を示しています。黒潮本流は、犬吠埼沖を接岸傾向で通過した後、本県沖合を北北東に流れており、北緯37° 東経143° 付近まで北上傾向を示しています。また、本県の沖合および南部沿岸に黒潮から暖水が波及しています。
- ・親潮第一分枝の先端は北緯40.5° 東経144° 付近(青森県沖合)にあります。また、塩屋埼の沖合下層(100m深)に6°C台の冷水が存在しています。

2. 海洋観測結果(7/2~7/6:ときわ)

- ・水平水温図(水温, 前月差, 平年偏差)を図2~9に示しました。また, 各定線の鉛直水温図を図10~13に, 会瀬・鹿島定線の鉛直水温図(前月差, 平年偏差)を図14~17に示しました。表面水温は, 会瀬沖で17.5~25.3°C, 大洗沖で17.9~25.4°C, 鹿島沖で20.6~26.2°C, 犬吠埼沖で21.8~26.1°Cでした(図2)。
- ・黒潮本流が本県沖合を北上した影響により, 前月と比べると広い海域で表層・下層(100m深)とも昇温しました。特に沖合表層(+3~+6°C)と鹿島~犬吠埼沖下層(+4~+9°C)で顕著に昇温しました(図6, 7)。
- ・平年と比べると, 沿岸・沖合の表層および極沿岸では「高め」基調, 大洗沖~犬吠埼沖の下層では「高め~きわめて高め」, 会瀬沖の表層・下層の一部では「低め」となりました(図8~9, 図16~17)。

3. 今後の1カ月の見通し

- ・黒潮流型はB型もしくはC型で推移するとともに, 本県沖合での黒潮流路は北上傾向となる状態がしばらく続くでしょう。また今後, 県北部の極沿岸域まで暖水が波及するでしょう。
- ・親潮は本県沖に直接影響しないでしょう。但し, 塩屋埼の沖合下層に存在する冷水が本県の北部沖合まで南下する可能性があります。
- ・水温を平年と比べると, 沿岸・沖合の表層および極沿岸では「高め」で推移するでしょう。また沿岸・沖合の下層では, 会瀬沖を除き「高め~きわめて高め」で推移するでしょう。

